

第43回全国消防殉職者慰霊祭が執り行われました

第43回全国消防殉職者慰霊祭が、10月3日（木）日本消防会館（ニッショーホール）において、ご来賓並びにご遺族、全国消防関係者のご参列のもと執り行われました。

日本消防協会では、昭和57年以来、毎年、全国消防殉職者慰霊祭を行っており、今年で43回目となります。

慰霊祭では、日本消防協会旗の入場、開式の言葉の後、秋本会長の「御霊の奉納」の儀、黙祷、秋本会長の式辞につづき、内閣総理大臣（代理）、総務大臣およびご遺族代表から「追悼のことば」をいただき、その後、ご遺族、ご来賓等参列者の皆様による献花が行われ、厳粛のなかに式典が執り行われました。

本年は3柱の御霊が新たに合祀され、明治5年からの消防殉職者等の御霊は、5,790柱となりました。

本県からは、ご遺族代表者様3組（5名）と会長及び事務局職員が参列し、先人の遺徳を偲び、感謝申し上げるとともに、施設の充実や訓練の徹底などに尽力し、再び殉職者を出さないよう全国から参加されたご遺族や協会役職員一同、殉職事故の絶滅への決意を新たにいたしました。



